

## 拉致問題の解決へ向けて

### 1. はじめに

2002年9月17日小泉首相（当時）が訪朝し、北朝鮮による日本人拉致が白日のもとに晒されてから7年が経過した。その間、拉致被害者5人とその家族が帰国・来日した以外、拉致問題は膠着状態であり、何の進展もない。被害者の帰国を一日千秋の思いで待っている私たちは、ただ年齢を重ねただけであり、その苦しみや悲しみは年々増大し、もはや限界に達しようとしている。非常に残念極まりないことである。

### 2. 政権交代

その時間の流れの中、政治の世界には大きな変化が到来した。すなわち自民党から民主党への政権交代である。様々な分野で自民党政権との対立軸を明確にしている民主党政権であるが、果たして長期間に亘って停滞を続けている対北朝鮮外交ではどのような政策を執るのか注目していた。しかし、残念ながら現時点では旧態依然としたもののようである。

### 3. 鳩山首相の国連演説

一方、鳩山首相は2009年9月24日国連総会の一般演説で北朝鮮問題について演説した。その概要は以下のとおりである。

- ① 核実験、ミサイル発射は脅威であり断固として認めない。国連安保理決議を完全に実施する。六者協議を通じて朝鮮半島の非核化に努力する。
- ② 日朝平壤宣言に則り、拉致、核、ミサイルという諸懸案を包括的に解決し、不幸な過去を誠意をもって清算し国交正常化を図る。
- ③ 拉致問題については、昨年合意したとおり速やかに全面的な調査を開始する等の、北朝鮮による前向きな行動が日朝関係進展の糸口になり、北朝鮮による前向きかつ誠意ある行動があれば、日本としても前向きに対応する用意がある。

この内容についてはほぼ共感できるものであるが一部不満もある。首相は、②で「諸懸案を包括的に解決」と言っている。これは聞こえ